

経営比較分析表（平成30年度決算）

石川県珠洲市 珠洲市総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非数値
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	ト透訓	救 護へ災
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
14,400	12,865	非該当	10:1	

※1 ト…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪審制病院

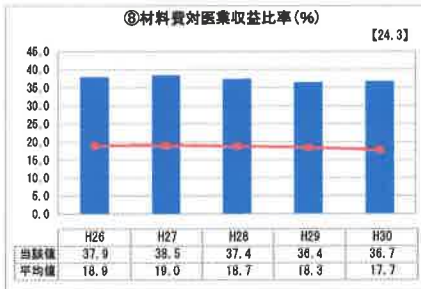
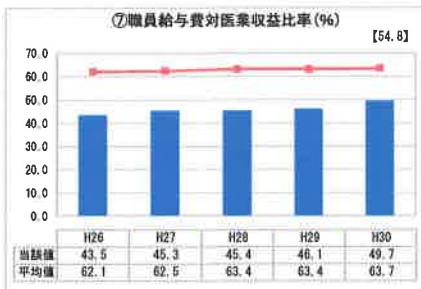
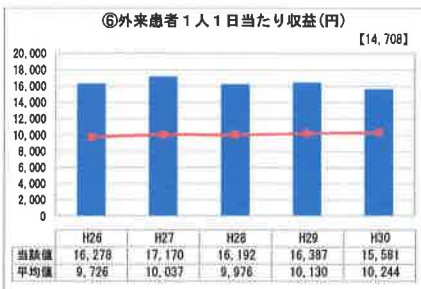
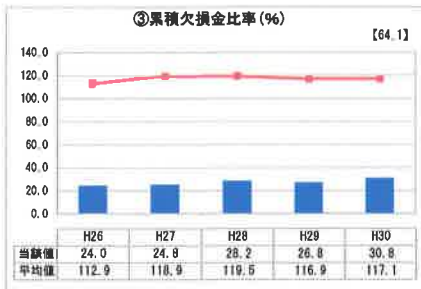
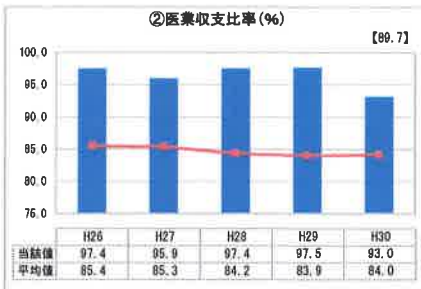
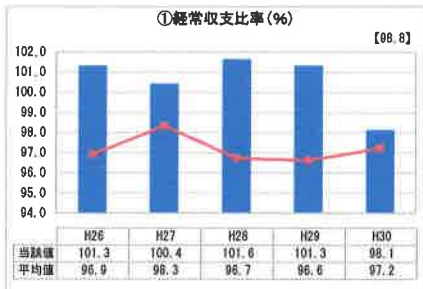
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(総合)
156	32	7
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	195
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
154	-	154

グラフ凡例

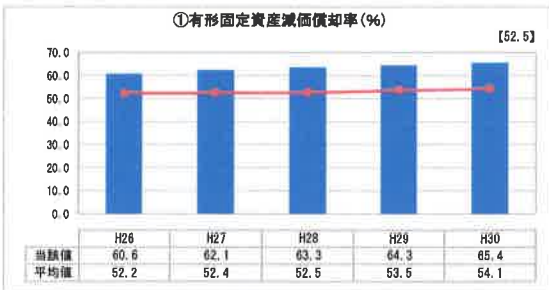
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理運営制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

「市民の心の支えとなる、地域の中枢病院」を病院理念として、医療設備の更新、電子カルテの導入等により、より良質な医療、効率的な業務の推進に努めている。

また、地域に根ざした医療と健康管理を基盤とした、地域保健、健康増進活動およびプライマリ・ケアからリハビリテーション、さらには在宅医療サービスに連関した包括的な地域医療に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は高齢化・少子高齢化が進んでおり、本院の入院・外来患者数ともに減少傾向で推移している。

そのような状況においても、①経常収支比率、②医業収支比率及び③累積欠損金比率ともに、類似病院の平均値より良い水準となっており、健全経営が維持されている。

④病床利用率は、平成30年度から産後療養病床32床を休床したことによって改善されたが、平成30年度は入院患者数の減少に伴い、再び平均値を下回る結果となった。

⑤入院患者1人1日当たり収益及び⑥外来患者1人1日当たり収益は平均値を上回っており、安定的な収益を確保している。

⑦職員給与対医業収益比率は平均値を大きく下回っており、経費全体に占める給与費の割合は低くなっている。一方⑧材料費対医業収益比率は平均値を大きく上回っているが、これは県の院内処分を実施していることによるものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②器械備品減価償却率は、平均値を上回っており、法定耐用年数を経過した資産を多く保有している現状にある。

③1床当たり有形固定資産も、平均値を上回っているが、これは平成30年度に新病院が建設されてから21年が経過し、設備更新の費用が年々増加していることによるものと考えられる。

今後には長期的な更新計画に基づき、適切に資産の更新を図っていく予定である。

全体総括

経営の健全性・効率性を示す指標は概ね良好である。

しかし、平成20年度までは経常収支比率が100%を超え黒字だったものが、平成30年度は入院患者数の落ち込み等により、単年度収支で赤字に転落した。

地域が単年の先頭に位置する本院では、高齢化に伴う人口減少は避けられないものであり、今後も入院・外来患者数の減少は続くものと考えられる。

そういった中でも、経営の効率化を図りながら、収支の黒字化を継続していくことが重要であると言える。

次に、老朽化の状況を示す指標は、全て平均値を下回っており、老朽化した資産を多く保有しているのが現状である。

今後には老朽化した資産を順次、計画に基づき更新していく予定である。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。